

こだま

第196号
2018.7

ISSN 0915-8782

CONTENTS

- 新附属図書館長 岩見先生インタビュー……………1
- 金大生のための読書案内ー教員から学生へ ……4
- PICK UP イベント／とぼらニュース……………6
- LA自主企画「学長奨励賞受賞者に聞く! 大学での勉強法!!」/English Hour!/図書館ビブリオバトル…7
- 図書館トピックス ……8



金沢大学附属図書館報“こだま”

<http://library.kanazawa-u.ac.jp/>

新附属図書館長 岩見先生インタビュー



図書館の未来と「変化」のすすめ

今年4月、附属図書館長に就任した岩見雅史先生に、図書館や本への思い、専門の研究分野について、図書館の未来構想、そして、学生へのメッセージなど、深く語っていただきました。聞き手は、学生を代表して、ラーニング・アドバイザーのお二人にお願いしました。

日時：2018年6月22日(金)

附属図書館長：岩見雅史

聞き手：井上 周(電子情報学類4年)

西尾香央理(学校教育学類4年)



変化に適応した研究人生

井上 本日はよろしくお願ひします。さて、最初の質問ですが、現在岩見先生はどういった研究をされているのでしょうか？

岩見 昆虫が幼虫から蛹を経て成虫になる「変態」過程で何が働いているのか、その物質の遺伝子について研究をしています。学生時代から遺伝子の研究を、ウイルス、マイコプラズマ、がん細胞で研究していました。一般企業に就職し



附属図書館長 岩見雅史

た後、大学の助手になってから、研究テーマを昆虫の遺伝子に変更しました。

西尾 研究テーマを変えることに抵抗はなかったのですか？

岩見 なかったですね。そもそも遺伝子レベルになると、がん細胞も昆虫の細胞もほとんど同じ内容での研究です。

井上 研究者を目指そうと決めたのはいつ頃のことですか？

岩見 高校生の頃、まわりに優秀な生徒が多くいて、そういう人にはかなわないと思っていました。民間企業で研究を続けていければ良いぐらいに考えていましたが、母校から声が掛かって大学の助手になったときに、このまま研究を続けていくのかなと思いました。

西尾 大学に戻ろうと決めたのは何か理由があったのですか？

岩見 企業の場合、目的は営利になります。当時は非営利の研究も許される時代でしたが、基礎的な研究の方をずっと続けてやってみたいと思い、大学に戻りました。私の場合、1つの道を進むというよりは、その時々状況に従って進路を変え続けて、今に至っています。与えられたところで一生懸命やってきた結果といえます。若い人たちは、最初にこれと思いきんだ道を変更することに抵抗があるかもしれませんが、私にはあまりありませんでした。長期的に見て、変わることが身を助けてきたと思います。

井上 続いて、先生と本との関わりについて教えていただければと思います。先生は昔から本をよく読まれていたのですか？

岩見 大学受験が終わり、時間は出来たけれども、色々悩んでいた時期に、多くの本を読みました。

井上 例えばどんな本を読んでいたのですか？

岩見 当時は学園紛争の後で、モラトリアムという言葉が出てきた時代でした。大江健三郎、加藤周一、安部公房、カミュ、カフカといった作家の本が流行っていました。朝起きるのがつらくなるまで読んでいました。現在は、悩みがあったりすると、ネット空間に逃げ込むことがあります。当時は本屋や図書館に逃げ込む人が理系でも多かったと思います。今の時代とは全く感覚がちがいますね。

井上 そうなのですね。読書をしておいて良かったと思う経験は何かありますか？

岩見 目に見える訳ではありませんが、役立った気がしますね。例えば、J. D. ワトソンの『二重らせん』(中央図開架, 464.4 : W339) といった本を読むと、研究者のまわりの人間模様が赤裸々に語られています。H. F. ジャドソンの『分子生物学の夜明け』(中央図開架, 464 : J93) やノーベル賞を受賞した研究者による発見の経緯であるとか、科学に関する歴史の本などの伝記的な本は、研究の励みになるし、進路の選択肢を提案してくれるので役立ちました。

学生にとっての大学図書館

西尾 今の図書館について何か感じていらっしゃいますか？

岩見 そうですね、カフェができたりしていますが、日常生活から一時逃げ込む場としての図書館自体の雰囲気は、私が学生だった40年前と大きく変わっていないと思います。逆に私からお二人にお聞きしたい。普段利用していて、図書館に要望はありますか？

西尾 私は文学作品が好きなのですが、読みたい本が公共図書館のように見つかりません。文庫本などもあると良いですね。

岩見 最近は電子書籍というものもありますが、お二人は電子書籍を読んだりしますか？

西尾 私は、画面上で本を読むのが苦手なのでいつも紙の本を読んでいます。

井上 僕も全く読まないというわけではないのですが、どちらかといえば紙の本の方が多いです。漫画や論文も電子書籍化が進んでいますよね。

岩見 研究論文は、大半が電子ジャーナルに切り替わってしまいましたね。

井上 この前、探していた論文が金大では読めなくて、ILLで取り寄せをしました。



井上 周 (電子情報学類4年)

岩見 電子ジャーナルは非常に高額だからなかなか揃えられないですね。金大でも年2億円以上払っています。

西尾 そんなに高額なんですね。

岩見 図書館の施設はどうですか？

西尾 勉強によく使っています。たまに「暑い！」と感ずることがありますけど。あと、もっと一人用の個室があると嬉しいですね。

井上 私は、個室よりも人と交流できる場所になって欲しいと思います。ほかにも、立ったままで作業やディスカッションができるテーブルや英語などを音読できる個室などがあると良いと思います。

西尾 それいい！

岩見 東京大学や北海道大学など、新しく改装した図書館でも、色々なスペースを作っていますね。最近では、本と向かい合うだけでなく、人と向かい合う場としての機能も取り入れる傾向があるようです。本も著者と読者の会話のようなものですし。

井上 最近、文理融合ということがよく言われていますよね。僕も文系／理系、どちらの本も利用したいことがあるのですが、金大の図書館は中央と自然に分かれていて、15分歩くのが結構大変です。

岩見 まあ、歩いている間にアイデアがひらめくこともあるかもしれませんよ（笑）

井上 確かにそれはあるかもしれないです（笑）

岩見 お二人はラーニング・アドバイザーとして図書館内で学習支援を担当していますね。どんな質問が来ますか？

西尾 私は先日、留学生の就活のための日本語サポートをしました。

井上 僕は中間試験前の学生から数学の質問を受けました。僕もかつて同じような内容で「大学数学の最初の壁」に苦しんだのを思い出しました。自分の経験が後輩の役に立てばよいのですが。ほかにも、学校教育系の黒田智先生と「図書館ブックトーク」というイベントを行いました(p.5参照)。

このように、勉強に関する質問への対応や、イベントの開催などを行っています。

岩見 これからも、学習支援のために先輩学生の力を借りていきたいですね。

未来の図書館は？

井上 これからの図書館はどうなっていくのでしょ

うか？

岩見 金大では昨年度、「未来図書館構想」を作りました。その中に「人と向き合う交流の場」とする構想を含めています。

お二人から、未来の図書館についてのアイデアがあれば聞いてみたいのですが。

西尾 世界にはいろいろな考え方や文化があると思います。そういった国々の文化を感じられる空間がたくさんあると良いと思います。

岩見 一巡りすると、いろいろな文化に触れたり、国籍を異にする人と交流できるということですね。

井上 ふと目についた本やたまたま隣に座った人など、予期しないものに出会える場所になって欲しいですね。その中で専門分野についての交流もできると良い。

岩見 研究室とは違った、色々な人とくつろぎながら読書できるサロンのような空間が求められているのかな。

井上 「ほん和かふえ。」で、近くの座席に居た人たちの会話からインスピレーションを得たことがあります。カフェにいるといつもとは違った刺激を得られるのが楽しいです。

岩見 自然科学系図書館の方にもカフェが欲しくなりますね。



学生へのメッセージ

西尾 最後に学生へのメッセージをお願いします。

岩見 高度経済成長の時代には、一つの方向に向かって「最も強くなること」、「最も賢くなること」が求められていましたが、今はつくづく「そうではない」と思っています。ダーウィンも「最も変化に適応したものが生き延びる」と言っています。私たちホモ・サピエンスは、いちばん賢く、強い生物というわけではありません。生き延びたのは、変化に適応できた結果です。

これからは、1つの方向にではなく、状況に応じて必要な能力を伸ばしていくことが大切だと思います。もちろん、図書館も変わっていく必要があります。

西尾 なるほど。ここでもキーワードは「変化」と「適応」でしょうか。

岩見先生、本日はどうもありがとうございました。



黒田 智先生
(人間社会研究域学校教育系 教授)

「時間がありあまっている(ように思える)人への
濫読のすすめ」

平成30年5月21日～ 中央図書館で展示中

第24回

24回目を迎える教員おすすめ図書コーナー。

今回紹介して下さるのは人間社会研究域学校教育系の黒田智先生です。

この読書案内に特段のテーマはありません。大学生のころって、それなりにいろいろ悩みをかかえていて、いつも下を向いて歩いていた気がします。かといって、けっして真面目な学生ではなかったので大学にはろくに行かず(大学の授業はつまらなかった!), 時間は無際限にありあまっているように思えたので、日がな一日(しばしばお酒を片手に)本を読んですごしていました。そういう日々を思い返しながら書いた読書案内です。

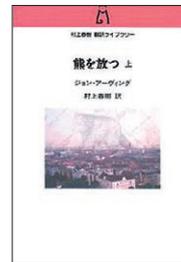
時間がありあまっている(ように思える)大学時代に濫読をお勧めします。なにを読んでもいいと思います。今、学んでいる専門分野にこだわらず、自分の心の触角で感知できるものの射程を確認しながら、関心の裾野を広げていってください。

熊をめぐる冒険

ジョン・アーヴィング『熊を放つ』(中公文庫, 1996年)は、村上春樹訳の青春小説です。動物園襲撃のはてに最後に解放された熊とは何でしょうか。

この地球に生息する動物のなかでもっとも偉大なものは、たぶん熊です。古来、熊は神で、人間と自然の対立を止揚し、均衡を担保してきました。中沢新一『熊から王へ』(講談社メチエ, 2002年)は北アメリカの狩猟民たちの神話から王と国家の出現をひもとき、ベルント・ブルンナー『熊』(白水社, 2010年)は熊と人間の共生の歴史を語ります。宮沢賢治『なめとこ山の熊』(『宮沢賢治全集』7, ちくま文庫, 1985年)は人間と自然の対称性(交換)をめぐる寓話で、川上弘美『神様』(中公文庫, 2001年)と『神様2011』(講談社, 2011年)もまた、福島原発事故をはさんでふたつの熊=神さまの物語をつむいでいます。

アメリカ民謡「森の熊さん」の原詞は実は熊から逃げるばかりで、一緒に踊ったりはしません。安東みきえ『頭のうちどころが悪かった熊の話』(新潮文庫, 2011年)は恐妻家の熊の記憶喪失の物語。吉村昭『罨嵐』(新潮文庫, 1982年)に戦慄するのも、舞城王太郎『熊の場所』(講談社文庫, 2006年)の壮絶な死闘に鳥肌を立てるのもいいでしょう。あるいは、アニメ『ユリ熊嵐』(2015年)を観て、「断絶の壁」を乗り越え、「ともだちの扉」をたたいてみるのもいいでしょう。



※以下、おすすめ図書のうち、展示中のものを掲載

洪水の記憶

『壘のなかの手記』/エドガー・アラン・ポー著(バベルの図書館 11巻), 富士川義之訳国書刊行会, 1989.3

現代というディストピア

『虚構の時代の果て』/大澤真幸著, 筑摩書房, 2009.1
『リトル・ピープルの時代』/宇野常寛著, 幻冬舎, 2011.7

愛と世界の語り方

『好き好き大好き超愛してる』/舞城王太郎著, 講談社, 2008.6
『母の恋文』/谷川徹三, 谷川多喜子著; 谷川俊太郎編, 新潮社, 1994.11

その一瞬をとらえる

『尋ね人の時間』／新井満著（芥川賞全集 14巻），文藝春秋，2006.5

『三人の女；黒つぐみ』／ムージル作；川村二郎訳，岩波書店，1991.4

日本の寓話世界

『家守綺譚』／梨木香歩著，新潮社，2006.10

『逝きし世の面影』／渡辺京二著，平凡社，2005.9

穴に入りたくなったら

『万延元年のフットボール』／大江健三郎著，講談社，1967.9

『風の歌を聴け；1973年のピンボール』／村上春樹著，講談社，1990.5

人とつながること

『葬儀の日』／松浦理英子著，河出書房新社，1993.1

『ぶらんこ乗り』／いしいしんじ著，新潮社，2004.8

生と死の悲嘆(grief)と幸甚(obliged)について

『野性の棕櫚』／井上謙治訳（フォークナー全集 14巻），富山房，1968.4

『悼む人』／天童荒太著，文藝春秋，2011.5

※全文は、右記URLもしくは2次元コードからご覧いただけます。http://library.kanazawa-u.ac.jp/?page_id=358

- 第21回「大学生小説／福土圭介先生（環日本海域環境研究センター）」は自然科学系図書館で展示中です。
- 第22回「人間を理解する人間の試み／遠藤徳孝先生（理工研究域－自然システム学類）」は保健学類図書室で展示中です。
- 第23回「統計学を招いた異才たち／広瀬修先生（理工研究域－電子情報学類）」は医学図書館で展示中です。



黒田先生による「図書館ブックトーク#1」を6/14(木)に開催しました！ 中央



教員おすすめ図書コーナーで展示中の「**時間があままっている（ように思える）人への濫読のすすめ**」とあわせて楽しんでもらえるよう、図書館ブックトークを企画しました。昼休みの30分という短いトークであったにもかかわらず、学生、教職員、一般利用者を含む33名もの参加がありました。

聞き手は、中央図書館のラーニング・アドバイザーでもある井上周さん(電子情報学類4年)が担当しました。はじめに黒田先生の学生時代の話や現在の専門について伺った後、テーマの意味や4つのサブテーマについて順に

聞いていくという形で進行していきました。最後の質問タイムでは多くの手が上がり、関心の高さが伺えました。以下は、参加者の感想をピックアップしたのですが、実的に的を射たコメントになっています。

- 勢いでどんどん読む。もっと気軽に本を読んでいこうと思いました。
- 本がジャンル分けされた配付資料はたいへんわかりやすく参考になりました。対談形式も聞きやすく、時間を忘れてしまいました。
- ある種の強迫観念から「本を読まねば」と思っていたが今回お話を聞いて、そんなにかまえなくて良いのだと思えた。中でも「流し読みでいい、全部読まなくていい」という話は意外で、目からうろこだった。これから読書をより楽しめそうです。ありがとうございました。



【図書館ブックトークとは】

本学の教員がカジュアルな雰囲気の中でおすすめの本や読書の楽しみについて語る、知的好奇心を喚起する企画です。今後も続けていく予定ですので、お楽しみに～！



★日・EUフレンドシップウィーク2018特集★

2018年度の「EUフレンドシップウィーク」も好評でした！

全国18大学のEU情報センター（EUi）では、欧州連合（EU）への理解度を深めるために、毎年5月9日の「ヨーロッパ・デー」（EUの創設記念日）前後から7月にかけて、「日・EUフレンドシップウィーク」と題し、様々なイベントを集中的に実施しています。北陸地方で唯一のEUiとして活動している金沢大学附属図書館では、以下のイベントを実施しました。

展 示

中央

EU企画展 「EUに留学しよう：チェコ&ポーランド編」
6月11日（月）～7月1日（日）



図書館グローバルカフェ#4

中央

6月13日（水）の昼休みに中央図書館ブックラウンジで図書館グローバルカフェ#4「EUに留学しよう：チェコ&ポーランド編」を開催しました。

チェコ（カレル大学）への留学経験者1名とポーランド（ワルシャワ大学）からの留学生2名によるトークイベントに学生・教職員合わせて24名の参加がありました。ドリンクサービスもあって、和やかな雰囲気の中で熱心に耳を傾けていました。参加者の感想には「留学生のお話を聞いたことで、自分の留学についてよく考えたいと思った」「行こうと思わなければ考えない国について話を聞くことができよかった」といったコメントがあるなど、たいへん有意義なカフェでした。



留学経験者の三上敬生さん



留学生のカロリナ・シチェパニクさんと
ナタリア・パウリナ・プルスさん

図書館学生ボランティア とぼらニュース

選書ツアーを実施しました！

2018年度最初の選書ツアーを5月26日（土）の午後に、「うつのみや金沢香林坊店」で実施しました。

とぼらのメンバー6人が中央図書館に置く本を実際に手に取りながら選びました。

これらの本は、6月26日までに「ほんわか文庫」と「とぼら選書コーナー」に、とぼら自身が作成したポップとともに、並べられました。どうぞご利用ください。

後期も選書を行います。どんな本が選ばれるのか、お楽しみに。



とぼら上映会を 7/4に開催しました！



とぼら読書会を 7/11に開催しました！

第1回 とぼら読書会

7月11日（水）
13:00～14:00
中央図書館 読書室

本を読むだけで満足していませんか？
同じ本を読んで感想を言い合う、それまた読書の楽しみの一つです。
今回の読書会では、2～3人のグループと一緒に短編を読み、ゆる～く雑談してもらいます。
事前準備は一切不要！何を読むか当日決めます。
軽い気持ちで参加ください！

【注】読書会ボランティア（1名）
011-836-9192 4460000 11040420

LA 自主企画「学長奨励賞受賞者に聞く! 大学での勉強法!!」を開催 中央



ラーニング・アドバイザー (LA) の自主企画として、「学長奨励賞受賞者に聞く! 大学での勉強法!!」を4回実施しました。(6/13,18, 7/2,4)

「学長奨励賞」とは、毎年の各学年・各学類の成績上位3名に学長から与えられる賞です。受賞者の勉強法を聞くことで、学生 (主に下級生) の学習に対する刺激になればよいと企画したものです。

インタビュー形式で行い、「授業中に心掛けていること」「テスト前のスケジュール」「息抜きにしていること」などを聞きました。質疑応答でも参加者から多くの質問が飛び、終了後に個別に話し込んでいる姿もありました。

発表者：浜中皇希 (大学院機械科学専攻2年)、島田若奈 (学校教育学類4年)、田中優希 (学校教育学類4年)
司 会：西尾香央理 (学校教育学類4年/中央図書館ラーニング・アドバイザー)

毎回賑わっています★English Hour! 中央

自然科学

Q1&Q2 4/23~7/9 隔週月曜日 6回開催 中央
4/18~7/18 隔週水曜日 6回開催 自然科学

毎回テーマを設けて開催している English Hour は、1 時間では物足りないのでは?と思うほど毎回賑わっています。

ファシリテーターは、LeCIS などの留学生が担当しており、途中で席替えをしたりして、多くの人とコミュニケーションがとれるようにしています。さらに、初対面でも緊張をほぐすアイスブレイク手法により、気軽に参加できるのが特徴です。

まだ参加をためらっている方もぜひ、一度覗いてみてください。

きっと有意義な時間を過ごせるはずです。



今年で6年目★図書館ビブリオバトル 中央

Q1&Q2 第31回 5/23 第32回 6/20 (写真右)
第33回 7/18

自分が読んで面白かった本についてプレゼンを行った後、参加者全員でディスカッションを行い、最後にいちばん読みたくなった本について投票してチャンプ本を決める「図書館ビブリオバトル」は、なんと今年で6年目を迎えました。

プレゼンの度胸が身につく図書館ビブリオバトルにあなたも参加してみませんか?

Q3&Q4も開催を予定しています。





図書館

トピックス

大学・社会生活論，情報処理基礎

平成30年度の新入生を対象とした共通教育科目の授業を図書館職員が担当しました。「大学・社会生活論（4月16日～5月10日）」の1コマで、図書館の基本的な利用方法を、「情報処理基礎（5月7日～11日）」の1コマで、資料の探し方及びデータベースの検索方法の説明と実習を行いました。授業後の感想では「積極的に図書館を利用していきたい」などの声が聞かれました。



5/28-6/15 医学図書館ブックリユース市

医学

国試の対策本など医学系専門書を中心としたブックリユース市を医学図書館ブックラウンジで開催しました。全期間で提供した本は261冊で、そのうち183冊が新しい持ち主の手に渡っていきました。

文献検索講習会などを開催

5/11 SciFinder 講習会 自然科学
6/25 WebWork 講習会 中央



Library Guide & Tour / 留学生のための図書館利用説明会

中央 自然科学

図書館職員と留学生ラーニング・コンシェルジュ (LeCIS) が連携して、留学生を対象とした図書館利用説明会を4月17日（自然科学系図書館）と4月18日（中央図書館）に実施しました。



資料展示

EU関連展示はp.7をご覧ください。

中央図書館

- 新歓展示「図書館スタッフ おすすめの新生活応援本!」(4/9-5/6)
- 企画展示「ビブリオバトルで戦った本たち2017」(4/16-5/20)
- 企画展示「インドネシアとカンボジアを知ろう!」(7/9-8/9)



自然科学系図書館

- 企画展示「すばらしき菌世界」(5/25-6/23)



5/15-16 第15回ブックリユース市

中央

春のブックリユース市を中央図書館入口のピロティで開催しました。2日間で提供した1,957冊のうち、持ち帰りは1,316冊でした。天気にも恵まれたこともあり、大好評でした。



電子ブックについてのお知らせ

- 「理科年表プレミアム」の購読は中止しました。
- 「ジャパンナレッジLib」で利用できる事典に、平凡社の「世界大百科事典」が加わりました。

編集後記

館長インタビューはいかがでしたでしょうか。誌面に載りきれないほど盛り上がりまして、別の形でご紹介できないか検討しているところです。

広報委員会メンバー

橋 洋平 瀧口玲子 遠藤優紀 伊藤美和
北村左希子 水木理恵 笠原健司 守本 瞬

5/22 TOSHOKAN QUEST 抽選会

こだま195号新入生歓迎企画のTOSHOKAN QUESTでは応募者71名全員が宝箱を開けるために必要な正しい呪文「泉鏡花」を導き出すことができました。「行ったことがない場所に行っておもしろかった」「楽しかった」などの感想が寄せられました。5月22日に中央図書館閲覧ホールで抽選会を開催しました。岩見附属図書館長による厳正な抽選の結果、20名の方に「ほんわかサンドセット」の引換券がプレゼントされました。



金沢大学附属図書館報「こだま」第196号

平成30年7月20日発行 発行：金沢大学附属図書館
編集：広報委員会 印刷：株式会社 橋本確文堂
〒920-1192 金沢市角間町 TEL：076-264-5200
E-mail：etsuran@adm.kanazawa-u.ac.jp

*この印刷物は再生紙を利用しています。